

7. 評価と計画のみなおし

里地里山保全再生計画の実行と同時に、評価作業を行います。これは、保全再生活動が保全目標に沿っているかを確認するとともに、活動継続への意識を高め、また、必要に応じて計画の見直しを行うためのものです。

評価方法には、自然評価（モニタリング）と、社会評価があります。

7-1 自然評価（モニタリング）

里地里山保全再生計画におけるモニタリングは、里地里山の現状把握や保全再生活動を行った結果の評価、計画の再検討のために行います。また、モニタリングそのものも、里地里山保全再生に参加する各主体の意識形成につながります。そのため、里地里山保全再生計画では、できるだけ簡単に継続可能な生きもの調査、モニタリングを行います。

このモニタリングは、各種の開発など直接的な影響だけでなく、さまざまな私たちの行いが自然環境にどのように影響を及ぼすかを、生態系の変化を通じて察知することで、生態系の劣化を未然に防ぐ手立てを検討しています。モニタリングの方法は、「同じ場所を、長い間見続ける」ことです。

環境省生物多様性センターでは、日本各地の生態系の変化をとらえるために、1000カ所のサイトを設けモニタリング活動を行っています。<http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

このモニタリングは、空中写真等から里地里山の土地利用の変遷を過去にさかのぼって明らかにしています。そのうえで、地域で活動を続ける NPO や専門家の協力を得て、植物相の調査や指標となる生物種の調査を継続し、里地里山の質的な変化をとらえ、里地タイプごとの問題点の抽出や保全方策の検討に役立てようと検討が進んでいます。

里地里山保全再生計画では、環境省のモニタリングの方法を参照しながら、各地区でできる簡単なモニタリングを推奨します。

（1）モニタリングの準備

里地里山調査（自然環境調査）で利用した地図を活用して、保全活動を実施している人を中心に、専門家も交えて、モニタリングを行います。

里地里山の生物の調査には、指標種調査と生物相調査があります。保全活動に生かす科学的データとするには、最低限、調査場所と調査地（ルート）を決め記録に残す必要があります。環境省モニタリング 1000 里地調査では、表のような項目を調査しています。

保全再生作業と連動した調査計画をたてましょう（項目、場所、時期を設定する）

(2) モニタリング手法の例

	趣旨	時期	人数	準備品	方法	調査票
アカガエル卵塊調査	林と水辺の連続性の評価 冬期間の水辺維持の評価	2月～3月に2～3週間おき 1カ所2～3回	1カ所につき2～3人	調査地点周辺の地図、竹串、調査票	卵塊の数を数え、目印の竹串などをしておく。 重複のないよう各回カウントし、合計数を出しておく（産卵期に幅があるため）。	基本情報 年月日、時間、天気、場所地名、参加人数 卵塊数 環境情報 ・水辺の状況 （耕作乾田／耕作湿田／休耕藪／休耕湿地／土水路／その他水路／湧水湿地／溜池／その他） ・周辺林の植生と管理度（落葉広葉樹／常緑広葉樹／針葉樹／その他） ・水辺と林の移動障害物の有無 ・水温、およその水深 ・水源・水の供給源の確認 ・備考（その他気づいたこと、確認できた生物等）
水辺の生物調査	水辺に生息する生物の確認 普及啓発 子どもたちの自然とのふれあい	6月～7月中旬に1カ所1回	何人でも 子どもも参加	調査地点周辺の地図、タマ網、観察用トレイ、バケツ、調査票	溜池は網籠を前日か早朝に仕掛ける。 水路と休耕田等はタマ網で調べる。	基本情報 ・年月日、時間、天気、場所字名、参加人数 生物 ・想定される水生生物のリストと書き込める空欄 魚類（ドジョウ、メダカ…） 両生類 貝類 水生昆虫 甲殻類 ・◎たくさんいる ○いる △わずかに確認 環境情報 ・現地の状況 耕作状況、湿地湿田／藪や乾田、土水路、コンクリ水路、周辺の植生、水源の状況
河川の水生生物調査	水辺に生息する生物の確認 普及啓発 子どもたちの自然とのふれあい	6月～8月中旬に1カ所1回	何人でも 子どもも参加	調査地点周辺の地図、タマ網、観察用トレイ、バケツ、調査票	タマ網で調べる。	基本情報 ・年月日、時間、天気、場所字名、参加人数 生物 ・想定される水生生物のリストと書き込める空欄 魚類（ドジョウ、メダカ…） 両生類 貝類 水生昆虫 甲殻類 ・◎たくさんいる ○いる △わずかに確認 環境情報 ・現地の状況 耕作状況、河床の状況、土水路、コンクリ水路、周辺の植生 流入水がどこからくるか
林床植物調査	林床植物の確認により林の管理状況の適切さを図る 盗掘を防ぐ	可能なら1カ月に1度、無理なら3月～5月	1カ所3～5名	調査地点周辺の地図、調査票、図鑑、カメラ	調査範囲、調査ルート歩き、主に草本について確認できたものを記録する。 花・つぼみ・実がついているもの限定する。 できたら同定し、わからないものは写真にとっておく。	基本情報 ・年月日、時間、天気、場所字名、参加人数 植物 ・記入欄（花・つぼみ・実） 環境情報 ・現地の状況 耕作状況、周辺の植生
生物相チョウ・トンボ調査	なにがどれだけいるか調べる モニタリング	1カ月に1度	1カ所3～5名	調査地点周辺の地図、調査票、図鑑、カメラ、捕虫網、虫かご	調査範囲、ルート歩き、見かけたあるいは捕獲したチョウ・トンボを記録する。 捕獲したものは写真をとる。 できたら同定し、わからないものは写真にとっておく。	基本情報 ・年月日、時間、天気、場所字名、参加人数 チョウ、トンボ名、見かけた頻度 環境情報 ・現地の状況

(参考) 里地里山でのモニタリング調査

モニタリングに関する情報が掲載されているホームページ

- ・環境省 生物多様性センター「モニタリングサイト 1000」
- ・日本自然保護協会「自然環境調査」
- ・環境省「身近な生き物調べ」
- ・環境省「水生生物調査」
- ・全国農業協同組合「田んぼの生物調査プロジェクト」
- ・農と自然の研究所「田んぼの生き物調査」

7-2 社会評価

社会評価は、目標達成状況の確認です。保全再生活動を実行している各主体や地域の「達成感」の確認となる項目を決めておきます。

保全再生面積、参加したボランティア等の数、イベントの入り込み数、観光客の数や地元商品の販売額など、保全再生計画の目標に応じて指標を決めておきます。また、地域や関係主体のアンケート等による評価なども可能です。

7-3 見直し

定期的に、保全再生活動の状況を各主体や地域の人達と連携して発表し、計画の進み具合を共有します。また、新たな課題や、活動によって生まれた新たな知恵などを活かして計画の見直しを行います。



